

令和6年度における
市民参加対象事項の取組予定に対する
評価結果報告書

安城市市民参加推進評価会議

令和6年4月8日

安城市長 三星元人様

安城市市民参加推進評価会議
会長 寺田 覚

令和6年3月19日に市民参加推進評価会議を開催し、令和6年度における市民参加対象事項の取組予定に対する評価結果をまとめましたので報告します。

1 市民参加の対象

市の施策の企画立案、実施及び評価の各過程に市民が主体的に関わり、行動するため、平成23年に安城市民参加推進条例（以下「条例」といいます。）を施行しました。条例第6条で次の4項目を市民参加の対象としています。

- (1) 条例の制定または改廃
- (2) 計画の策定または変更
- (3) 制度の導入または改廃
- (4) 公共施設の設置に係る計画等の策定または変更

2 市民参加の手段

市が市民参加を求める場合は、意思決定前の適切な時期に、対象事項の内容を考慮して次に掲げる項目の1以上の方法により行うこととしています。

- (1) 審議会等（市民が参加する合議制の会議）
- (2) パブリックコメント
- (3) 市民説明会
- (4) ワークショップ
- (5) その他市長その他の執行機関が適当と認める方法

3 評価結果

令和6年度に市が取り組む予定の市民参加対象事項について、次の評価基準により評価会議としての評価をしました。結果は次頁のとおりです。

- ：適切である
- △：おおむね適切である
- ×：要見直し

No.	対象事項	評価結果	担当課
1	安城市庁舎整備基本構想の策定	○	行政課
2	安城市図書館運営基本計画の改訂	○	アンフォーレ課
3	安城市ゼロカーボンシティ推進戦略の策定	○	環境都市推進課
4	地域計画の策定	○	農務課
5	第5次安城市生涯学習推進計画の策定	○	生涯学習課
6	第3次安城市スポーツ振興計画の策定	○	スポーツ課

4 対象事項への意見等

No.1 安城市庁舎整備基本構想の策定（行政課）		
【事業の概要】		
庁舎整備に伴い、庁舎整備基本構想を策定する。		
	意見	回答
1	市民にとって関わりの深い市庁舎であるだけに、地域での市民説明会があり、意見をもらえるとより良いと思います。	パブリックコメント前に住民説明会を行う予定です。
2	有益と考えられる手法を組み合わせ実施されています。ワークショップやアンケートを実施することに加えて、得られた意見が適切に反映され、より市民の声と計画とが融合して、良いものになることを期待します。	ワークショップ、アンケート等により得られた意見につきましては、可能な限り基本構想に反映できるよう努めます。
3	審議会の委員任期は、R 7. 2～R 9. 3となっています。新任期のタイミングのため、委員の男女比に関してもなるべく同数に近づけていただきたいです。	可能な限り配慮します。
4	審議会の委員構成内訳を見ると、公的団体6名、学識経験者2名、公募市民2名とありますが、大きな事業であり市民の生活に直結してくる内容ですので、公募市民を3～4名に増やしていただきたいです。 一般市民という点でも発言のしにくさがあるように感じます。構成人数の差が少なくなると、発言しやすくなり会議内容の幅も広がるのではないのでしょうか。	審議会は、公募市民のほか、建築、防災、都市計画、福祉等の庁舎整備に関連する分野の学識経験者や、関係機関の代表者で構成する予定です。全体的なバランスを考慮して人数を定めていますので、現行の計画により進めます。
5	審議会の傍聴は何人の予定でしょうか。関心の高い経費のかかる事業となるため、10名以上は傍聴できると良いと思います。	具体的な傍聴人数の想定はありませんが、傍聴に不自由のない会場選択を行います。

	意見	回答
6	パブリックコメントの意見募集期間を見ると、令和7年12月頃とありますが、重要な事業のため、他のパブリックコメントと時期が重ならないようにしていただけると提出しやすくなると思います。多忙な年末時期を避け、11月の募集はいかがでしょうか。	庁内及び審議会での検討スケジュールを考慮すると、パブリックコメントを11月に行うことは、日程的に難しいと考えます。
7	大きな事業であり市民の生活に直結してくる内容ですので、パブリックコメントの時期を他のパブリックコメントとずらして11月で検討願います。	
8	パブリックコメントの周知方法について、eモニターや安城市の公式LINEでも周知していただきたいです。また、公民館などの閲覧場所によってはどこにあるのか分かりにくかったので、大きなポップを作るなど一歩踏み込んで目立つ工夫があると良いのかなと感じました。	(行政課) パブリックコメントの実施前に基本構想に関する住民説明会を行い、周知に努めます。 (市民協働課) 令和5年度から、パブリックコメントの意見募集期間について、市LINE公式アカウントで配信しています。
9	パブリックコメントの想定件数は100件とありますが、総合計画が400件とのことでしたので少なく感じます。他に何か増やす工夫などありますか。	パブリックコメントの実施前に基本構想に関する住民説明会を行い、周知に努めます。
10	ワークショップの回数が2回とありますが、3回行うのが望ましいと考えます。 司会の方の手腕によるところもありますが、ワークショップ初回は顔合わせのような印象ですので、しっかりと意見交換まで考慮すると3回は必要ではないでしょうか。 また、進行者の手腕により市民の意見を引き出せるかどうか変わってくると考えます。大規模な事業であり事業費も大きいため、広く市民の意見が集められる場、平等に意見が出しやすい場であることを期待します。	ワークショップの回数につきましては、当初の計画から変更し、3回とします。 司会及び進行については、より良いものとなるよう、今後具体的な内容を検討します。

	意 見	回 答
11	市民アンケートの回収率が60%想定ですので、来庁者アンケートを行い、回答率を100%に近づける工夫をしてはいかがでしょうか。	市民アンケートを実施する時期に来庁者アンケートも併せて実施することを計画しています。より多くの意見をいただきたいと考えています。
12	市民参加の手法（その他）に市民アンケートとありますが、eモニターや、安城市の公式LINEでもアンケートを実施していただけると、たくさんの市民への周知や参加につながると思います。その際に、検索やホームページを辿るのは手間がかかるため、QRコードなど簡易的に利用できたり、アンケートの所要時間などを記載したりすると、回答率増につながるのではと思います。	市民アンケートには、QRコードを掲載し、スマホ等により回答できるようにする予定です。 また、庁舎に関するeモニターアンケートは、今年度実施をしましたが、必要に応じて今後も実施していきたいと考えています。
13	今後を担っていく小・中・高校生にも学校を通じてアンケートを取れると回収率も上がり、新感覚のアイデアも生まれるのではないのでしょうか。また、自分達が今後も住み続ける町として、安城市庁舎整備に関係したという想いも生まれると想定されます。	庁舎を利用する年齢層の多くは、成人であると考えられるため、18歳以上の男女をアンケートの対象としています。
14	市民アンケートの調査対象ですが、小・中・高校生にも参加する機会があると良いと思います。	
15	回収見込数は1,800部（回収率60%）とありますが、より高められる工夫は何かありますか。 例：簡易的に、知識のない人でも分かりやすい、見てみようと思える文面にしている、発送から締め切りまでの期間を長すぎず短すぎず設定している、など。	QRコードを掲載し、スマホ等による回答を可能とし、回答率の向上に努めます。
16	安城市民全員で考える庁舎整備のため、安城市の考える整備の必要箇所、そのための費用なども公表していただけると経費をかける必要の有無など検討しやすくなり、アンケートに回答しやすいのではないのでしょうか。	アンケートの段階では、整備手法や事業費について、具体的な内容が決まっていないため、アンケートにこれらを提示することは難しいと考えます。 なお、その後行う基本構想のパブリックコメントでは、整備手法や事業費を提示し、ご意見をいただく予定です。

	意見	回答
17	市民50人のワークショップを行うこと、またパブリックコメント100件、アンケート回収率60%と努力を含めての数値と判断して評価しましたが、妥当な目標値かどうか、再度検討が必要だと思います。	目標値につきましては、今後事業を進める中で、状況の変化に照らして適切なものになっているか確認し、その妥当性を判断していきます。
18	アンケートの事前に審議会①を開催して、その意見をもとに指標や項目などのアンケート内容を決めるべきなのではないでしょうか。アンケート内容にも市民の意見を反映してもらいたいです。 さらに、アンケートとワークショップの間に審議会を開催して、意見を双方に反映して対話のもと、事業を進めていただきたいです。 ※今回の評価内容No. 5、No. 6に事例があります。	審議会につきましては、設立に必要となる条例改正等の手続きの日程を踏まえると、開催を早めることは困難です。従いまして、アンケートとワークショップにつきましては、現行の計画により進めていきます。

No.2 安城市図書館運営基本計画の改訂（アンフォーレ課）

【事業の概要】

安城市図書館運営基本計画を計画期間（2020年度から2029年度まで）の中間年である2024年度に見直しを行う。

	意見	回答
1	有益と考えられる手法を組み合わせて実施されています。ワークショップや審議会などでも、パブリックコメントの募集を広めて、多くの意見を集められる工夫をお願いします（結果として少ないことに関しては問題ありません）。	パブリックコメントにつきましては、市LINE公式アカウントでの配信も含めて、多くの意見を集められるようPRに努めます。
2	審議会等について、委員構成に利用団体（学生など）を追加したらどうでしょうか。	広く様々な立場の方を公募します。
3	審議会等の男女比について、女性の方が少ないのはなぜですか。	学校教育関係者が令和5年度の交代により男性になったため、男性の比率の方が多くなりました。
4	審議会等の委員任期について、R6. 5.1～R8. 4.30となっています。新任期のタイミングのため、委員の男女比をなるべく同数にしたいだけだと思います。	今後も男女比につきましては、できる限り同数になるように努めます。
5	審議会等の委員構成内訳について、市民に直結した関心の高いサービスのため、より意見の収集ができるように公募市民の人数を3名に増員していただきたいです。また、その他の委員のうち、家庭教育関係者のみ2名なのはなぜでしょうか。	委員構成内訳につきましては、偏りが生じないよう検討します。 家庭教育関係者は、安城市図書館登録ボランティアグループの方で、おはなし会などのイベントを担当するなど、図書館サービスの提供に直接ご協力いただき、本市の図書館運営に精通しているため、2名としています。
6	パブリックコメントは、関係各位から意見をもらえるよう努力が欲しいです。	パブリックコメントにつきましては、市LINE公式アカウントでの配信を含めて、多くの意見を集められるようPRに努めます。
7	パブリックコメントについて、想定件数に3件とありますが、市民の生活に直結している場や利用頻度の高い場としては少ないように感じます。他に何か増やす工夫などありますか。	
8	パブリックコメントの募集期間が12月頃となっていますが、市民にとっては繁忙期でありコメントが出にくいことと年末の休館期間に重ならないよう、適切な募集時期を検討してはいかがでしょうか。	パブリックコメントのスケジュールについては、適切な時期に実施できるよう検討します。

	意見	回答
9	<p>パブリックコメントの周知方法について、eモニターや、安城市の公式LINEでも周知していただきたいです。</p> <p>また、公民館などの閲覧場所によってはどこにあるのか分かりにくかったので大きなポップを作るなど一歩踏み込んだ目立つ工夫があると良いのかなと感じました。</p>	<p>(アンフォーレ課)</p> <p>図書情報館2階展示コーナーでは、パブリックコメントを関連する本とともに展示を行い、多くの市民がパブリックコメントに興味を持ってもらえるよう努めています。</p> <p>(市民協働課)</p> <p>令和5年度から、パブリックコメントの意見募集期間について、市LINE公式アカウントで配信しています。</p>
10	<p>ワークショップが1回しかないこと、健常者中心のeモニターアンケートで、十分な回答が得られるか検討が欲しいです。回収率は、実績から明記を望みます。</p>	<p>ワークショップにつきましては、複数回開催するよう検討します。</p> <p>また、eモニターアンケートについては前回策定時に行っており、比較のため前回と同様に行います。</p> <p>前回は1,207人から回答がありました。回収率につきましては、実績の報告時に明記します。</p>
11	<p>ワークショップは通常市民で開催されると思われませんが、団体関係者と学識経験者等が5人ずつ入るのはなぜでしょうか。</p> <p>団体関係者は読み聞かせなどのボランティアと思われませんが、学識経験者はどのような方々なのでしょう。市民の意見を発言しやすく広く聴取できるように市民公募人数を10人に増やしていただきたいです。</p>	<p>ワークショップの参加者につきましては、広く様々な立場の方を募集します。</p>
12	<p>アンケートは、eモニターアンケートを予定されていますが、安城市の公式LINEや図書館やアンフォーレのホームページを利用、来館者からの意見も募集していただけると、広く、実際に利用されている方の意見収集につながるのではと思います。</p> <p>また、ホームページを辿るのは手間がかかるため、QRコードなど簡易的に利用できたり、アンケートの所要時間などを記載したりすると、回答率増につながるのではないのでしょうか。</p>	<p>利用者アンケートにつきましては、来館者に対して、令和5年11月13日から12月12日に行っており、今回の見直しにおいても、結果を反映することとしています。</p> <p>安城市の公式LINEやQRコードの利用については次回の利用者アンケートで対応できるよう努めます。</p>

	意見	回答
13	<p>今後を担っていく小・中・高校生にも学校を通じてアンケートを取れると回収率も上がり、新感覚のアイデアも生まれるのではないのでしょうか。また、利用の方針を検討することにより利用促進にもつながると思います。</p>	<p>利用者アンケートにつきましては、小・中・高校生も含めた来館者に対して、令和5年11月13日から12月12日に行っています。</p> <p>さらに、司書教諭や学校司書をとりまとめる図書館教育アドバイザーを通じて、意見の把握に努めます。</p>
14	<p>eモニターアンケートについて、調査対象を18歳以上の人とされていますが、その理由はなぜでしょうか。</p> <p>勉強等で利用している18歳以下の子供たちにも学校を通じてアンケートをしていただくと広く意見が収集できると思います。</p>	<p>eモニターアンケートの登録要件は「市内在住または在勤・在学の満18歳以上の人」となっています。</p> <p>さらに、司書教諭や学校司書をとりまとめる図書館教育アドバイザーを通じて、意見の把握に努めます。</p>
15	<p>現在も市民に愛される施設として認知されていると感じます。「知の情報拠点」を目指して、より多くの情報を、より皆さんに知っていただける形での活動を期待します。</p>	<p>今後もより多くの情報を利用者に提供できるよう努めます。</p>
16	<p>アンケートの事前に協議会①を開催して、その意見をもとに指標や項目などのアンケート内容を決めるべきなのではないのでしょうか。アンケート内容にも市民の意見を反映してもらいたいです。</p> <p>さらに、アンケートとワークショップの間に審議会を開催して、意見を双方に反映して市民との対話のもと事業を進めていただきたいと思います。</p> <p>※今回の評価内容No. 5、No. 6に事例があります。</p>	<p>アンケート内容につきましては、今回は中間年度における見直しですので、比較のためにも前回と同様の内容で実施しています。</p> <p>ワークショップの進め方につきましては、図書館協議会で検討します。</p>

No.3 安城市ゼロカーボンシティ推進戦略の策定（環境都市推進課）

【事業の概要】

カーボンニュートラルを推進するための、具体的な取組みを記載した戦略を策定する。

	意見	回答
1	審議会での聞き取り以外に、市民や事業者が対象であるので、ワークショップ、アンケート、説明会での参加が必要に思います。ゼロカーボンに向けての意識の改革をどう構築していくのか、市民参加がみえません。	カーボンニュートラル推進のため、市民・事業者の意識改革は必要不可欠です。そのため、審議会を年数回開催し委員から意見を聞くとともに、パブリックコメントの実施により広く市民から意見をいただくことを予定しています。
2	委員構成の男女比が偏っているのではないのでしょうか。	安城市環境審議会委員は、団体や関係機関等に推薦いただき選出されるため、性別指定による選任は難しいという実情がありますが、委員の改選の際には男女共同参画が図られるよう引き続き配慮していきます。
3	審議会等の委員の男女比について、団体の代表者として男性が多いのかもしれませんが、偏りが大きく感じます。男女共同参画の観点からもなるべく同数に近づけていただければと思います。	
4	審議会とパブリックコメントでは参加が少なくありませんか。 審議会の前にeモニターも検討してはいかがでしょうか。	当該戦略策定にあたっては、カーボンニュートラル達成のための施策・取組みに関するご意見を伺いたいと考え、インターネットを利用してアンケートを行う事業であるeモニター制度よりも、審議会及びパブリックコメントにより市民参加を図ることが適切と考えます。
5	行政・企業にとって、重要で深刻度の高いキーワードの取組みです。適切なステークホルダーと連携すること（主要企業）、および、団体の代表のみならず、企業・市民へ浸透させることも意識して取り組んでください。	カーボンニュートラル達成に向け、市民・事業者・行政が一体となって取り組む実効的な計画とすべく、主要企業の取組み等も考慮しつつ、市民・事業者の意識改革・行動変容につながる戦略となるよう検討を進めます。

No.4 地域計画の策定（農務課）

【事業の概要】

農業経営基盤強化促進法に改正に基づく地域計画を策定するため、前身計画である人・農地プランを承継する。

意見	回答
1 地域計画主体の内容であるので、各地域単位での説明会であることによる手法として、評価しました。ただ、成果物の公開がない点は、評価できません。	市民参加推進調査シートではわかりにくい表現になっており申し訳ありません。本件における農務課の取り組みとしては、説明会を通して、前身計画を策定した農用地利用改善組合に対し、法改正に応じた計画承継を促し、計画承継に関する情報を取りまとめ、公表することです。
2 実施した説明会の内容を可能な範囲で公開する必要があるのではないのでしょうか。	従いまして、説明会后、各農用地利用改善組合で不定期に行われる計画策定協議会（以下、協議の場）の情報及び成果物については農務課が取りまとめて公表しています。 各地域の計画案（＝成果物）の公表は農務課が行います。 農務課が主催する説明会の概要は、既に農林水産省が公表しています。各地域における協議の場の概要に関しては、農務課が適宜公表を行います。
3 説明会の開催案内が適切に対象者に届くこと、欠席者・希望者に対しても必要な情報が届くような工夫が必要不可欠だと思います。	前身計画がすでに施行されていることから、農務課主催の説明会は、前身計画の策定主体である農用地利用改善組合対象にしています。 説明会后に開催される各地域の協議の場に関しては、農務課、JA及び農用地利用改善組合だけでなく、農業委員会、明治用水とも連携し、情報の伝達に努めます。
4 ①構成内訳が農用地利用改善組合長、近隣JA支店であること、②傍聴が非公開であること、③成果物が非公開であること、④市民対象が主に農業関係者であること、⑤意見を反映できる余地があること、以上の5点から考えると、一般市民が参加できる内容なのでしょうか。	協議の場の開催日程を事前公表するため、前身計画の策定に直接関与していない方も、傍聴はもちろん、参加が可能です。 また、今後の議題によっては、農務課や農用地利用改善組合から皆様に、協議への参加や議題に関するアンケートを依頼することがあります。 なお、協議の場の成果物は農務課が取りまとめて公表します。 以上より、一般市民が参加する余地のある内容と考えました。

No.5 第5次安城市生涯学習推進計画の策定（生涯学習課）		
【事業の概要】		
第5次安城市生涯学習推進計画を策定する。		
意見	回答	
1	<p>有益と考えられる手法を組み合わせ実施されています。ワークショップや審議会などでも、パブリックコメントの募集を広めて、多くの意見を集められる工夫をお願いします（結果として少ないことに関しては問題ありません）。</p>	工夫を凝らします。
2	<p>審議会等の委員任期はR6.4.1～R8.3.31となっています。新任期のタイミングのため、委員の男女比に関してもなるべく同数にしていただけだと思います。</p>	<p>策定委員会の委員は安城市社会教育委員と市民公募の委員で構成する予定です。 男女比を含め、年齢、経験等、計画策定に際し幅広いご意見がいただけるよう配慮します。</p>
3	<p>パブリックコメントの周知方法について、eモニターや、安城市の公式LINEでも周知していただきたいです。 また、公民館などの閲覧場所によってはどこにあるのか分かりにくかったので大きなポップを作るなど目立つ工夫があると良いのかなと感じました。 なお、ホームページを辿るのは手間がかかるため、QRコードなど簡易的に利用できたり、アンケートの所要時間などの記載で見通しが立つようにしたりしたら、回答率増につながるのではないのでしょうか。</p>	<p>（生涯学習課） 公民館等でのより一層の周知、QRコードの使用などを活用し、多くの方にご覧いただけるよう検討します。</p> <p>（市民協働課） 令和5年度から、パブリックコメントの意見募集期間について、市LINE公式アカウントで配信しています。</p>
4	<p>パブリックコメントの想定件数は未定とありますが、目標値の設定は重要かと思いますがいかがでしょうか。一步踏み込んだ工夫点もあるとなお良いのではと思います。</p>	<p>意見の数については目標値の設定は不要と考えますが、多くの方にご覧いただけるよう周知方法については検討します。</p>
5	<p>ワークショップの内容を教えてください。</p>	<p>前回は公募によりお集まりいただいた市民の方に、「生涯学習」というものを知っていただき、実際に「わくわくする生涯学習プログラム」を考えていただきました。今回の内容については検討します。</p>

	意見	回答
6	アンケートの回収率が50%と低いと、15歳以上の学生が通う学校にもアンケートを配布して回収率をあげる工夫などをしてもらいたいですか。また、未来を生きる子ども達を対象にして年齢を下げたらいかがでしょうか。	回収率の増のため、配付方法については検討しますが、生涯学習は子どもから大人まで幅広く対象としていますので、様々な年齢の方のご意見が反映できるようにしていきます。
7	アンケートの調査対象を15歳以上とされていますが、その理由はなぜでしょうか。12歳以上からにして学校などでアンケート配布をすると回収率もあがるように思います。	全年齢同じ設問によるアンケート結果により分析を行うため、的確に答えられる年齢が15歳以上と判断しましたが、配布方法と合わせ、年齢の引き下げについても合わせて検討します。
8	ワークショップ7回、アンケート、パブリックコメントの手法での市民参加を評価できます。ただし、ワークショップが同じメンバー25名とすると、令和7年度の6回のワークショップがタイトなスケジュールになっていることでの参加率の低下が心配されます。	前回は複数回通じて生涯学習プログラムを企画する、という流れであったため、今回もそれに倣い予定しましたが、ご意見を参考に検討します。
9	対象を全安城市民としていらっしゃるの、より多くの市民に認知されるように伝え方を工夫していただけるといいと思います。	工夫を凝らします。

No.6 第3次安城市スポーツ振興計画の策定（スポーツ課）

【事業の概要】

スポーツ基本法第10条に基づき、第3次安城市スポーツ振興計画を策定する。

	意見	回答
1	有益と考えられる手法を組み合わせる実施されています。ワークショップや委員会などでも、パブリックコメントの募集を広めて、多くの意見を集められる工夫をお願いします（結果として少ないことに関しては問題ありません）。	委員会等でパブリックコメントの募集を広める等、多くの意見を集められるよう取り組んでいきます。
2	パブリックコメントの周知方法について、eモニターや、安城市の公式LINEでも周知していただきたいです。 また公民館などの閲覧場所によってはどこにあるのか分かりにくかったので大きなポップを作るなど一歩踏み込んだ目立つ工夫があると良いのかなと感じました。 なお、ホームページを辿るのは手間がかかるため、QRコードなど簡易的に利用できたり、アンケートの所要時間などの記載で見通しが立つようにしたりしたら、回答率増につながるのではないのでしょうか。	(スポーツ課) 令和6年度に他課が取り組んだ事例を参照することにより、多くの市民の目に触れることができるよう取り組んでいきます。 (市民協働課) 令和5年度から、パブリックコメントの意見募集期間について、市LINE公式アカウントで配信するようにしました。
3	パブリックコメントの想定件数に3件とありますが少なく感じます。他に何か増やす工夫などありますか。	パブリックコメントについて、上記取組み等を実施し、広く周知します。
4	アンケートの回収率が30%と低いとため、時期や対象など工夫してはどうでしょうか。	手軽にできるインターネット回答をPRする等、回答率向上に向けて取り組んでいきます。
5	アンケートの調査対象、回収見込み数について、18歳以上で回収率30%とされていますが、部活動なども関係してくるのであれば、小学校6年生以上とその保護者などにして学校等でアンケート配布するのはいかがでしょうか。回収率もあがり課題把握に直結すると思います。回収率30%は別の対象事項と比較して少ないと思います。部活動以外のものであれば、調査対象を実際に関係する年齢からでも良いと思います。	今までのアンケート結果と比較できるように対象は無作為で抽出します。回答率が向上するよう手軽にできるインターネット回答をPRする等、取り組んでいきます。
6	パブリックコメント、アンケート両方とも、想定件数の少なさ、回収率の低さが心配されます。いずれも多くの市民の意見をくみ上げる努力が欲しいです。	パブリックコメント及びアンケートについて、上記取組み等を実施し、意見の収集に努めます。

5 市民参加の推進全般に関するご意見等

	意 見	回 答(市民協働課)
1	パブリックコメントの想定件数について、希望的数値と過去の実績値と各課により異なるように感じます。その点についてのガイドラインはあるのかどうか教えてください。	過去にパブリックコメントを実施したことがある事項は、過去の実績値を参考に想定件数を記入しており、新規の事項は、各課が想定する件数又は未定と記入しています。 なお、想定件数の記入方法は、調査時に記入例を示しています。
2	ワークショップの人数について、トータルの人数を表すのか、毎回同じメンバーなのかの違いが明確になっていないように思われます。その点についての説明が欲しいです。	ワークショップの人数は、1回あたりの参加人数を記入しています。 概ね毎回同じメンバーを想定しており、今後は「〇人/回」のように、1回あたりの人数を明記します。
3	ワークショップに高校あたり必ず一人出席するなど、高校生を参加させることはできないでしょうか。	高校生の方に必ず1名出席していただくことは難しいですが、広く周知するよう努めます。
4	アンケートの回収率をどのように上げるかを検討すべきと感じました。回収率は60%ぐらいあると良いのではないかと思います。	アンケートの内容により回収率が低くなることも考えられます。 必要数を回収できるように考慮した配布数となっていますが、多く回収できるよう努めます。
5	必要な取組みは行われていると判断されます。より、いろいろな人が目にしやすいように、市公式ウェブサイトでの掲載（掲載されていると思いますが、わかりやすい箇所への掲示・誘導）、動画コンテンツなどの作成、説明会などが全体的には少なそうなので、今回の事案ではなく、必要なものに関して結構ですが、動画での説明資料の作成の検討なども推奨・推進してはいかがでしょうか。	引き続き、市公式ウェブサイトでのわかりやすい情報発信に努めます。 今後、動画作成等についても検討するよう庁内に周知します。
6	今回のテーマではありませんが、策定後の説明会の開催や、策定された内容の周知に向けた発信（動画を含む）を工夫することも重要です。テーマではないと伝えましたが、結果として、策定されたものに対する関心を高めることが、次の策定時の市民の関心を高め、パブリックコメントなどがたくさん集まることにつながると考えられます。	策定した計画等の周知も重要だと考えます。 効果的な発信方法を検討し、周知に努めます。

	意 見	回 答(市民協働課)
7	<p>他市より転居してまいりましたが、安城市は人の出入りがある割に人情や地元愛をもっている方々もたくさんみえて魅力な地域性だと感じています。地元の方は趣味も多く穏やかな生活を送られているように思います。</p> <p>その反面、転入してきた子育て世代からは日常生活に追われてその他の時間がとりにくいとも耳にします。市民参加はゆとり時間と自分たちの住んでいる町の環境やまちづくりに意識が向かないと進みにくいように感じています。若い世代に積極的に参入してもらい住み続けてもらえたらと思います。</p> <p>分かりやすく楽しく身近に行政の施策を感じ、限られた時間の中で簡潔に所要時間などに見通しをもって参加できる形になると一歩踏み出しやすくなるのではと思います。</p> <p>自分たちが参加できることを知らない、パブリックコメントやeモニターの存在を知らない方も大半でした。安城市の公式LINEは見やすく使いやすいため、施策やアンケートなども配信してもらえると、市民参加しやすくなると思います。</p> <p>情報を手に取りやすいように配信して、市民の知る機会に寄り添っていただけると嬉しく思います。知って自分が実際に苦勞してやってみると、新たな視点が増え感謝も生まれます。その結果、地元や周囲の人への愛につながり、先の世代に引継ぎたいと地元での活躍を夢見る子供たちが増えるのではないのでしょうか。後世のために、少しずつ良い方向に進めていただきたいです。</p>	<p>若い世代の方を含め、市民の方に市政に関心を持っていただくことは重要だと考えます。市公式ウェブサイトや広報紙だけでなく、市LINE公式アカウントを活用し、パブリックコメントの募集等、市民参加に関する情報をわかりやすく発信するよう努めます。</p>

6 市民参加推進評価会議について

市民参加推進評価会議（以下「評価会議」といいます。）は、条例の運用、市民参加の実施状況の評価、市民参加の推進評価などを行うため設置されたものです。委員は、2年間の任期で、10名で構成されています。

	氏名	職名	区分
会長	寺田 覚	安城市町内会長連絡協議会 会長	公共的団体
副会長	小鹿 登美	さんかく21・安城 書記	市民活動団体
委員	居安 亜希子		公募市民
〃	河方 真司		
〃	土井 万寿美		
〃	深津 芹名		
〃	今永 典秀	名古屋産業大学 現代ビジネス学部 経営専門職学科 准教授 地域連携センター長	学識経験者
〃	菊地 玲滋	安城商工会議所青年部 会長	公共的団体
〃	稲垣 直美	安城市市民協働サポータークラブ	市民活動団体
〃	今 栄蔵	特定非営利活動法人JOANスポーツクラブ 代表理事	

（任期：令和5年7月1日～令和7年6月30日）